

第2章 主要統計指標－4

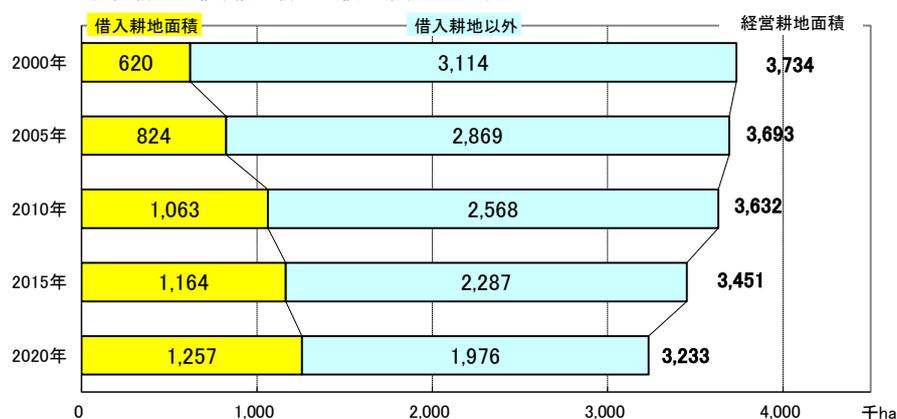
農林水産関連指標

<いみ>

第一次産業である農林水産業の現状や動向を明らかにする統計指標で、主な統計調査として、農林業センサス、漁業センサスなどがある。

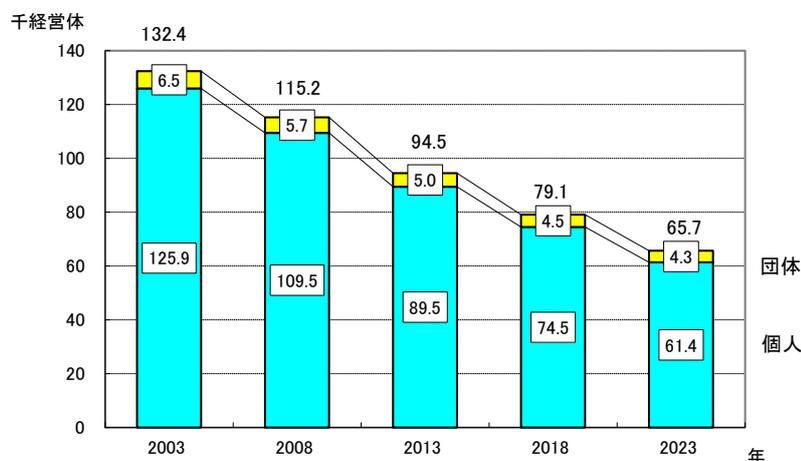
<たとえば>

図1 経営耕地面積、借入耕地面積の推移 <全国>



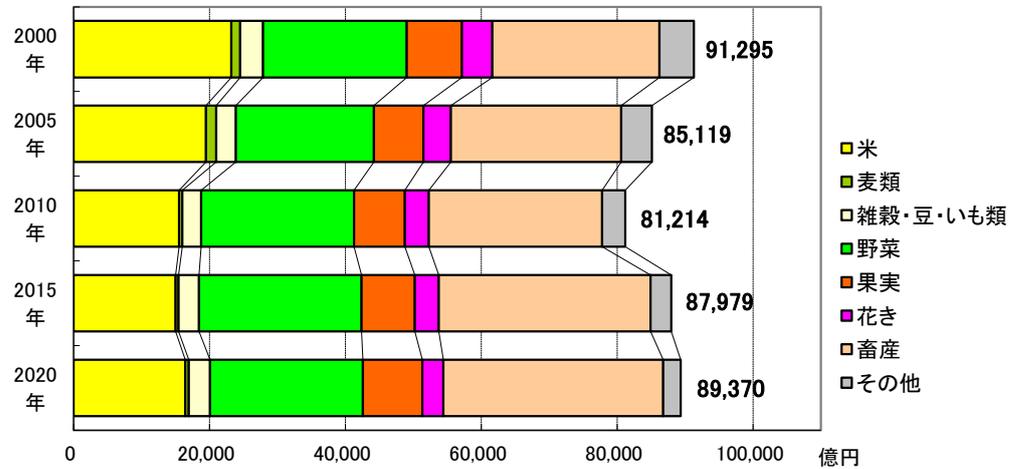
- 注1：「経営耕地」とは、「農業経営体」が経営している耕地（畦畔を含む田、樹園地及び畑）をいい、自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地（借入耕地）の合計をいう。
 なお、2000年は、「販売農家」にかかる数値を計上した。
- 2：「農業経営体」とは、農林業センサスに定める基準以上の農産物の生産を行う者及び農作業の受託の事業を行う者をいう。
- 3：「販売農家」とは、経営耕地面積30a以上又は1年間の農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。
- 4：四捨五入の関係上、内訳項目を合計したものが総面積と一致しない場合がある。
- ⇒ 農林水産省「農林業センサス」により作成

図2 漁業経営体数の推移 <全国>



- (注)1：「団体」：会社、漁業協同組合、漁業生産組合などの組織
- 2：四捨五入の関係上、内訳項目を合計したものが総数と一致しない場合がある。
- ⇒ 農林水産省「漁業センサス」により作成

図3 農業総産出額の推移 <全国>



⇒ 農林水産省「生産農業所得統計」により作成

<かんどころ>

1. 農林業センサス

- **調査機関** 農林水産省
- **調査周期** 5年毎。西暦末尾が「0」と「5」の年に実施、調査結果（速報）は該当年の11月に公表。
- **内 容** 全ての農林業経営体について、経営体数、従事者数、耕地面積、作付状況、保有山林面積などを調査している。
- **特 色**
農林業の生産構造や就業構造の変遷がわかる。例えば、経営体数、生産体制の組織化（法人化の状況）、経営規模、その他農業集落の地域資源の保全状況、林野面積など。

2. 漁業センサス

- **調査機関** 農林水産省
- **調査周期** 5年毎。西暦末尾が「3」と「8」の年に実施、調査結果（速報）は翌年8月に公表。
- **内 容** 全ての漁業経営体について、経営体数、従事者数、生産状況などを調査している。
- **特 色**
漁業の生産構造や就業構造の変遷がわかる。例えば、経営体数、使用した漁船隻数、漁業種類、漁場環境改善や活性化の取組など。

3. 生産農業所得統計

- 調査機関 農林水産省
- 調査周期 毎年
- 内 容 各種生産量調査を基礎として、毎年1月1日から12月31日までの1か年における農業生産の実態を貨幣価値で推計する。
- 特 色

農業総産出額では、米、野菜、畜産など部門別の産出額がわかる。

また、生産農業所得統計で公表されている農業所得や所得率の数値を用いて、「耕地10a当たりの生産農業所得」などを調べることができる。

4. 農林水産省統計表

- 作成機関 農林水産省
- 内 容 我が国の農林水産業の各分野の主要な統計について、農林水産省の統計調査結果を主体に他府省、各種団体等の統計調査結果を加えて総合的に編集したもの。
- 特 色

年報は、明治19年(1886年)に「農商務統計表」として発刊以来、毎年継続して刊行されている。

農林業経営体、農業集落、農用地、農業生産資材、農作物、林業、水産業、食料消費、農林水産財政及び金融などの統計が収録されており、農林水産統計の全貌を知ることができる。